

ヒ ジ サ イ  
**土 祭 2018**

土祭 2018 総括報告書

土祭事務局

2019.3

## 目次

- 1.土祭 2018 概要
  - 1-1 実施概要
  - 1-2 事業規模[会場・企画・人員]
  - 1-3 事業規模[予算・決算]
  - 1-4 今回の特色
- 2.来場者の状況
  - 2-1 来場者数
  - 2-2 ガイドブック販売配布実績
  - 2-3 来場者の満足度
- 3.企画運営参加者の状況
  - 3-1 土祭専任サポーター
  - 3-2 土祭におけるボランティア
  - 3-3 企画運営参加者の満足度
- 4.各企画における報告
  - 4-1 アート作品展示
  - 4-2 地域プロジェクト[田野・益子・七井]
  - 4-3 手仕事村・原土プロジェクト
  - 4-4 オカリナプロジェクト
  - 4-5 旧小宅小プロジェクト
  - 4-6 ゲストハウスプロジェクト
  - 4-7 夕焼けバー
  - 4-8 土祭食堂
  - 4-9 食プロジェクト
  - 4-10 関連企画
- 5.広報・メディア制作における報告
  - 5-1 実施概要
  - 5-2 広報活動やメディア制作での成果
- 6.準備・運営・サービスにおける報告
  - 6-1 会場選定
  - 6-2 会場設営
  - 6-3 会期中の運営[受付と会場管理]
  - 6-4 駐車場・巡回バス・レンタサイクル
  - 6-5 会場サイン
  - 6-6 のぼり旗
  - 6-7 情報伝達についての考察
- 7.企画運営における体制と進め方
  - 7-1 実施の経緯と概要
- 8.土祭 2018 の総括
  - 8-1 土祭 2018 の総括
- 9.今後の展開について
  - 9-1 土祭実行委員会の体制について
  - 9-2 地域とアートに関して
  - 9-3 広報に関して

## 1. 土祭 2018 概要

### 1-1 実施概要

#### (1) 実施概要

名称 | 土祭 2018

テーマ | 「土と益子 ～この土地で共に生きる～」

会期 | 2018年9月15日[土] から 2018年9月30日[日]、10月7日[日]

会場 | 益子町内各所

開場時間 | 10:00 から 17:00 まで

主催 | 土祭実行委員会

共催 | 益子町

実行委員長 | 大塚朋之

企画制作・運営 | 田野・益子・七井地区委員会、アート運営委員会

内容 | アート作品展示、各地区での企画、演奏会、ワークショップ、セミナー、映画上映など

ガイドブック | 税込 1,000 円 (中学生以下無料) 益子町民無料配布

#### (2) 組織

##### 土祭実行委員会

実行委員長 | 大塚朋之 副実行委員長 | 大塚一弘

高野康弘 清水益栄 豊田英雄 黒子善久 柳一巳 福田浩 川田進

川崎義博 雨海武 高山英樹 藤原彩人

##### 田野地区委員会

リーダー | 高野康弘 副リーダー | 柳一巳 福田浩

仁平博志 竹谷浩 小野光規 小玉貴浩

##### 益子地区委員会

リーダー | 大塚一弘 副リーダー | 豊田英雄 黒子善久

法師人和哉 森島一 亀田利行 大内充

##### 七井地区委員会

リーダー | 清水益栄 副リーダー | 川田進

高田英明 竹下鹿丸 関口勝義 小倉昭三 佐藤敬司 床井秀夫 中野修 橋本澄朗

大槻一文 滝沢等 森岡豊茂 佐藤浩 細野和男 大塚重信 湧井洋 茂垣力 大岡史昭

佐藤巧 矢口君江 矢口恵子 横山茂夫 大内千嘉夫 早川隆 大塚明 坂入三男

布瀬泰夫 渡辺方夫

##### アート運営委員会

川崎義博 雨海武 高山英樹 藤原彩人

土祭事務局

事務局長 | 大内正美 次長 | 高濱文夫  
福田浩一 吉川真司 蔦木壽宏 菅田大希

## 1-2 事業規模 [会場・企画・人員]

### (1) 会場規模

以下のような会場構成で各種プログラムを実施し、町内全域での開催は初めてとなった。

- ・地域プロジェクト | 田野、益子、七井の3地区に分かれそれぞれの地域のプロジェクトを実施
- ・展示およびイベントのメイン会場 | 山本八幡神社・道の駅ましこ・長堤八幡宮神社・内町・田町・城内・道祖土・西明寺・旧小宅学校・小宅古墳群

### (2) 企画数と出演者数

プログラム数 総企画数 46

内訳①会期中（展示企画 17 作品、イベント 12 企画、物販、飲食 8 企画）

②関連企画 9

出演者数 出展・登壇・公演者として延べ 876 名

内訳①展示作品作家 16 名 1 団体 延べ 48 名

②セミナー・トーク系企画の登壇者・スピーカー 延べ 12 名

③夕焼けバー 演奏団体 29 団体（延べ 30 団体） 延べ 360 名

④夕焼けバー 出店者 27 団体（延べ 45 団体） 延べ 135 名

⑤夕焼けバー 屋台運行 4 団体 延べ 120 名

⑥手仕事村 出店者 延べ 96 団体 延べ 192 名

⑦土祭食堂 出店者 3 団体 延べ 9 名

### (3) 運営スタッフ数

体制

企画制作・準備については、土祭実行委員長、地区委員会リーダー・副リーダー、アート運営委員、計 13 名からなる土祭実行委員会及び事務局で行なった。また地域プロジェクトに関しては各地区（田野、益子、七井）の地区委員会に事務局 1 名が担当となり、企画制作・準備を行なった。

スタッフ数 計 604 名

実行委員会 13 名（以下、各委員会と重複者有） 田野地区委員会 7 名 益子地区委員会 7 名  
七井地区委員会 29 名 アート運営委員会 4 名 事務局 6 名

※ヒジサポ 36 名

地域ボランティア 297 名

展示ボランティア 道祖土いきいきクラブ 城内坂スマイルクラブ 悠楽塾  
小宅里山の会 その他 計 69 名

※ヒジサポ…土祭専任サポーター直轄のボランティア組織。

地域ボランティア…地区委員会の呼びかけにより集まるボランティア。

展示ボランティア…土祭会期期間中のアート展示作品の受付を担当するボランティア。

いきいきクラブなどの高齢者団体やボランティア団体などにより構成。

役場職員 148 名

### 1-3 事業規模 [予算・決算]

収入の部 28,153,940

支出の部 27,295,195

差引金額 858,745

(収入の部)28,153,940 円

(円)

|   | 項目   | 当初予算額      | 補正額       | 収入額        | 概要                   |
|---|------|------------|-----------|------------|----------------------|
| 1 | 町交付金 | 27,000,000 | 0         | 27,000,000 |                      |
| 2 | 販売収入 | 0          | 732,000   | 732,000    | ガイドブック・オリジナルグッズ・オカリナ |
| 3 | 出店料  | 0          | 90,000    | 90,000     | 夕焼けバー出店料             |
| 4 | 雑入   | 0          | 100,232   | 100,232    | 協賛金、利息、還付金           |
| 5 | 繰越金  | 0          | 231,708   | 231,708    | 平成 29 年度繰越金          |
|   | 合計   | 27,000,000 | 1,153,940 | 28,153,940 |                      |

(支出の部) 27,295,195 円

(円)

|    | 項目        | 当初予算額             | 補正額              | 支出額               | 概要                                     |
|----|-----------|-------------------|------------------|-------------------|--|
| 1  | 報償費       | 1,230,000         | 310,297          | 1,540,297         | 実行委員報酬、ボランティア謝礼、土祭専任サポーター報酬            |
| 2  | 委託料       | 14,175,000        | 2,160,644        | 16,335,644        | 広報関係委託、アート作品展示委託、写真・動画撮影、記録集制作委託       |
| 3  | 企画運営費     | 8,100,000         | ▲2,252,449       | 5,847,551         | 地域プロジェクト、小宅小プロジェクト、オカリナプロジェクト、食プロジェクト等 |
| 4  | 旅費        | 1,100,000         | ▲186,740         | 913,260           | 作家、アート運営委員旅費                           |
| 5  | 光熱水費      | 50,000            | ▲754             | 49,246            | 会場水道、電気工事代                             |
| 6  | 食糧費       | 150,000           | 206,729          | 356,729           | 会議時お茶、ボランティア昼食等                        |
| 7  | 消耗品       | 600,000           | ▲79,430          | 520,570           | 会場設営用の道具等                              |
| 8  | 通信費       | 200,000           | 135,886          | 335,886           | 郵送料、切手代                                |
| 9  | 備品購入費     | 200,000           | 668,026          | 868,026           | 食器類、イス、テーブル                            |
| 10 | 保険料       | 45,000            | ▲4,507           | 40,493            | イベント保険、労災保険                            |
| 11 | 雑費        | 10,000            | 477,493          | 487,493           | 販売手数料、振込手数料等、アンケート粗品                   |
| 12 | 予備費       | 1,140,000         | ▲281,255         | 0                 |  |
|    | <b>合計</b> | <b>27,000,000</b> | <b>1,153,940</b> | <b>27,295,195</b> |  |

《実施の経緯と概要》

・収入

収入総額は予算 27,000,000 円から 1,153,940 円増の 28,153,940 円になる。増額となる主な内訳として、販売収入については、ガイドブック 1 冊 1,000 円、オリジナルグッズの土祭バッジ 1 個 500 円、オカリナ 1 個 3,000 円で販売した（オカリナはプロジェクト参加者のみへの販売）。また出店料に関しては夕焼けバー出店に伴い、1 日 1 店舗につき 2,000 円の収入があった。

## ・支出

支出に関して、予算より増額となっている主な項目は、委託料、食糧費、雑費であり、減額となっている主な項目は、企画運営費である。

委託料が増額となっている要因としては、土祭 2018 の記録集制作に関する支出が加わったためである。食糧費の増額は、想定より多くのボランティアが集まったことによる、昼食代・お茶代の増加であり、雑費の増額については、販売手数料、振込手数料、アンケート用粗品の支出があったためである。

減額となった企画運営費は、プロジェクトの規模縮小（ゲストハウスプロジェクト）や天候による企画変更・中止（オカリナプロジェクト、地域プロジェクト）に伴うものである。

### 《考察》

期間中、プロジェクト追加や規模縮小があったため、流動的な予算運用が求められた。予算の執行にあたっては、可能な限り経費節減に努め、限られた予算の中で最大の効果が得られるよう努めることが重要である。

## 1-4 今回の特色

「町民主導」の土祭の第一歩として、2年前に開かれた土祭検討委員会、昨年の前・土祭の中で、会場を田野・益子・七井の3地区に広げることとなった。それに伴い、3地区に地区委員会、アート部門にアート運営委員会を組織。プロデューサーやディレクターを置かず、実行委員会形式の運営となった。

テーマについては土祭検討委員会で決定された「土と益子 -この土地で共に生きる-」とし、「人」「暮らし」「未来」について、プロジェクトの企画、運営を行なった。

各地区委員会はそれぞれの地区の特色を生かした「地域プロジェクト」を企画、運営。アート作品展示に伴う会場選定と作家招聘、レクチャー講師の選定、その他のプロジェクトについてはアート運営委員会が主導で企画、運営。

会期中に合わせて実施される町民自主企画を「関連企画」とし、公式ガイドブックや土祭ホームページ、SNSにて周知。

会期中の受付スタッフは土祭 2015 と同様に、役場職員の他に各自治会やいきいきクラブに依頼した。七井地区の展示会場では七井地区委員も受付スタッフに加わった。

## 2. 来場者の状況

### 2-1 来場者数

○総計 会期中（9/15-9/30、10/7）の来場者数は延べ45,954人の来場があった。

#### 【企画数】

|      | 土祭 2018 | 土祭 2015 | 土祭 2012 | 土祭 2009 |
|------|---------|---------|---------|---------|
| 常設展示 | 17      | 19      | 18      | 10      |
| イベント | 12      | 13      | 10      | 6       |
| 小計   | 29      | 32      | 28      | 16      |
| 関連企画 | 9       | 15      | 40      | 86      |
| 計    | 38      | 47      | 68      | 102     |

#### 【来場者数】（人）

|      | 土祭 2018 | 土祭 2015 | 土祭 2012 | 土祭 2009 |
|------|---------|---------|---------|---------|
| 常設展示 | 32,251  | 52,089  | 42,002  | —       |
| イベント | 12,975  | 6,535   | 10,642  | —       |
| 小計   | 45,226  | 58,624  | 52,644  | —       |
| 関連企画 | 728     | 2,960   | —       | —       |
| 計    | 45,954  | 61,584  | 52,644  | 41,000  |

#### ※来場者数カウントについて

常設展示及びイベントへの来場者は、各会場の入口や会場内でのカウントによるものの合計とした。関連企画への来場者数は会期終了後主催者に聞き取り確認したものの合計とした。

#### 《考察》

前回よりも約12,000人少ない来場者数であった。これには「展示企画が前回22会場から13会場へ9会場の減」、「台風24号の影響」、「期間17日間のうち9日間が雨天」「広報活動の不足」といった要因が挙げられる。

上記要因により来場者数減になったが、今回は益子町を3地区に分け、それぞれに地区委員会を組織し、地区委員会による地域プロジェクトを実施した。そのため、イベントの集客数は前回6,535人に比べ、今回12,975人と約2倍になった。

今後は雨天となった場合、イベント会場ごとの対策が課題としてあげられる。

## 2-2 ガイドブック販売と配布実績

### 【金額（円）】

|         | ガイドブック<br>(パスポート付) | ガイドブック  | パスポート     | 合計        |
|---------|--------------------|---------|-----------|-----------|
| 土祭 2018 | 687,000            | —       | —         | 687,000   |
| 土祭 2015 | —                  | 487,704 | 932,500   | 1,420,204 |
| 土祭 2012 | —                  | —       | 2,273,000 | 2,273,000 |
| 土祭 2009 | 2,514,500          | 6,900   | —         | 2,521,400 |

### 【冊数（冊）】

#### （販売数）

|         | ガイドブック<br>(パスポート付) | ガイドブック | パスポート | 合計    |
|---------|--------------------|--------|-------|-------|
| 土祭 2018 | 687                | —      | —     | 687   |
| 土祭 2015 | —                  | 626    | 1,865 | 2,491 |
| 土祭 2012 | —                  | —      | 3,605 | 3,605 |
| 土祭 2009 | 3,010              | 69     | —     | 3,079 |

#### （無料配布数）

|         | ガイドブック<br>(パスポート付) | ガイドブック | パスポート  |
|---------|--------------------|--------|--------|
| 土祭 2018 | ※6,636             | —      | —      |
| 土祭 2015 | —                  | 6,387  | ※6,825 |
| 土祭 2012 | —                  | —      | 2,502  |
| 土祭 2009 | —                  | —      | 3,021  |

※内訳 自治会＋関係者＋その他

### 《実施の経緯と概要》

前回はパスポートとガイドブックを分けて販売したが、今回はパスポートを販売せず、ガイドブックにパスポートの機能をもたせて販売した。町外から土祭に入場するためのパスポート販売実績は、土祭 2015 の 1865 冊に対し、土祭 2018 では 687 冊で前回は 36.8%に減少した。また、土祭 2015 パスポート販売金額 932,500 円と土祭 2015 ガイドブック販売金額 487,704 円を合わせた全体の販売金額 1,420,204 円と土祭 2018 ガイドブックの販売金額 687,000 円を比較すると 51.7%減となった。しかし、ガイドブックのみの販売実績は土祭 2015 の 626 冊に対

し、土祭 2018 は 687 冊となりガイドブックのみの販売数は 110%増だった。

ガイドブックは町内の全世帯に配布した。自治会未加入等により配布されなかった世帯には、役場、改善センター、あぐり館の窓口で直接手渡した。

期間中、屋内展示受付 10 箇所と観光協会販売。そのほか町内 25 店舗に販売を依頼した。通信販売については問合せのあった 2 件のみであった。

#### 《成果と考察》

今回はパスポートの機能をガイドブックにもたせたことによって、会場に入場するための費用は、前回から 500 円値上がりしている。関係者向けのアンケートでは、「ガイドブック 1,000 円は高い、500 円でもよかったのでは。」「せっかく会場まで来たのに 1,000 円のガイドブックの購入をお願いすると、それではいいですと見ないで帰ってしまう人がいた。」といった内容の意見があり、価格設定については再考する必要があると思われる。ほかにも「ガイドブックなしの人の場合、1 箇所、100 円か 200 円で見られるといいと思います。それが次回、土祭への関心を高める事になると思います。」という意見も寄せられており、今後は来場者のニーズを分析し、実情にあった販売方法を検討し、ガイドブックの作成方法や入場券などでの対応も検討しなければならない。

#### 2-3 来場者の満足度

来場者へのアンケートは初の試みとしてハガキとウェブでの回答方式とした。アンケートの回収数は 111 件である。

##### 【回収内訳】

ハガキアンケート 102 件 ウェブアンケート 9 件

##### 【属性データ】

- ・性別 女性 50.0% 男性 41.7% 無回答 8.3%
- ・年齢 40代 26.7% 60代 15.0% 20代 10.0% 30代 8.3% 50代 5.0% 70代以上 3.3%  
10代 1.7% 無回答 30.0%
- ・居住地 町内 51.7% 栃木県外 20.0% (①茨城県 ②東京都 ③群馬県) 芳賀郡内 11.7%  
栃木県内 5.0% 不明 11.7%

【居住地データ (%)】

|      | 町内   | 芳賀郡内 | 県内   | 県外   | 回答数  |
|------|------|------|------|------|------|
| 2018 | 51.7 | 11.7 | 5.0  | 20.0 | 111  |
| 2015 | 15.1 | －    | 28.2 | 56.7 | 411  |
| 2012 | 19.6 | －    | 32.6 | 47.8 | 684  |
| 2009 | 31.6 | －    | 29.9 | 38.5 | 1203 |

【満足度データ (%)】

|      | とても満足 | まあまあ満足 | あまり満足<br>しなかった | 満足しなかった | 回答数 |
|------|-------|--------|----------------|---------|-----|
| 2018 | 20.0  | 60.0   | 11.7           | 3.3     | 111 |
| 2015 | 53.3  | 43.6   | 2.4            | 0.7     | 411 |
| 2012 | 55.7  | 38.6   | 5.6            | －       | 684 |
| 2009 | 48.4  | 51.6   | －              | －       | －   |

《成果と考察》

土祭 2012、土祭 2015 と比較しアンケートの回答数が減少している。今回の土祭 2018 ではアンケート付属のガイドブックに仕立てる事が出来なかった。

アンケートの記入方法は従来のハガキ形式のほかに、ウェブ形式を導入した。回収数の 8.1% がウェブ形式で、内訳として回答者の半数以上は町外だった。インターネットの繋がる場所であれば時間や場所を問わず、アンケートに回答することが可能となった。

「まあまあ～、とても満足」と回答した割合は前回の 96.9% より低い 80.0% となり、「あまり～、満足しなかった」の割合が前回の 3.1% から 15.0% へと上昇している。その要因としてアンケートの回答からは「…(中略)…場所が広範囲過ぎて、回るのに大変でした。(東京都|女性)」「会場が広く駐車場も分かりにくかった為、凄く歩く事になってしまった。…(中略)…子供を連れてでの参加は大変と感じました。(茨城県|男性)」など、会場が広がったことについての意見が見られた。その他アート作品、スタッフの対応への不満から土祭全体に対しての厳しい意見もあった。

今後の土祭開催に向け多くの意見を参考に、魅力的な土祭の開催に向け検討課題としていきたい。

### 3. 企画運営参加者の状況

#### 3-1 土祭専任サポーター

##### 《実施の経緯と概要》

ボランティア組織を立ち上げるリーダーと広報のサポートの人材を臨時採用する提案が実行委員会の会議であり、土祭専任サポーターと名付け、2名を採用。(以下、約5か月採用1名をA、約3か月採用1名をBとする)Aの募集開始は5月1日で採用日は6月1日とし、Bは募集開始を6月1日で採用日は8月1日とした。

##### 《成果と考察》

成果としては、①SNSの更新頻度の上昇、②ヒジサポの統括、③土祭会期中は柔軟に対応するスタッフとして活動の3点が挙げられる。それら以外にも、町内向けの情報紙として土祭新聞の取りまとめも行った。しかし、今回はボランティア組織の立ち上げも大きなミッションとして掲げられていたが、必要な人員確保ができず組織立ち上げまでには至らなかった。今後は土祭実行委員会全体の体制を考慮したボランティア組織立ち上げるための土祭専任サポーターが必要である。

#### 3-2 土祭におけるボランティア

| ボランティア種類   | 延べ人数 |
|------------|------|
| ① ヒジサポ     | 67名  |
| ② 地域ボランティア | 297名 |
| ③ 展示ボランティア | 236名 |
| ④ 職員       | 255名 |
| 合計         | 824名 |

##### ①ヒジサポ

ヒジサポ登録者数 36名

総数 36名 一般登録者 32名 / メール登録者 4名

##### 活動状況

|                        |    |
|------------------------|----|
| 7/10(火) プレス用資料製本作業     | 2名 |
| 7/26(木) 土祭新聞仕分け作業      | 1名 |
| 7/27(金) 土祭新聞仕分け作業      | 1名 |
| 8/6(月) ヒジサポ募集チラシ三つ折り作業 | 2名 |

|            |                                |    |
|------------|--------------------------------|----|
| 8/ 6(月)    | チラシ配り (町内)                     | 1名 |
| 8/ 7(火)    | ヒジサポ募集チラシ配り (町内)               | 1名 |
| 8/ 8(水)    | 第2版ポスター発送及び配布準備                | 2名 |
| 8/10(金)    | 第2版ポスター発送及び配布準備 販促用ポケットティッシュ作成 | 1名 |
| 8/22(水)    | 案内板ビニールづくり                     | 3名 |
| 8/27(月)    | 販促用ポケットティッシュ作成                 | 1名 |
| 9/ 2(日)    | 手仕事村 会場設営                      | 6名 |
| 9/ 3(月)    | ガイドブック修正紙とマップ差し込み              | 2名 |
| 9/ 4(火)    | 案内板ビニールかけ・ガイドブック修正紙差し込み        | 3名 |
| 9/ 8(火)    | 手仕事村 会場設営                      | 9名 |
| 9/ 9(水)    | 手仕事村 会場設営                      | 6名 |
| 9/10(月)    | ガイドブック修正紙差し込み                  | 1名 |
| 9/13(木)    | 手仕事村 会場設営                      | 2名 |
| 9/14(金)    | 手仕事村 会場設営                      | 1名 |
| 9/15(土)    | 益子の森・旧小宅小 会場スタッフ               | 1名 |
| 9/16(日)    | 益子の森・旧小宅小 会場スタッフ               | 4名 |
| 9/17(月)    | 益子の森・旧小宅小 会場スタッフ               | 5名 |
| 9/22(土)    | 益子の森・旧小宅小 会場スタッフ               | 2名 |
| 9/23(日)    | 益子の森・旧小宅小 会場スタッフ               | 4名 |
| 9/24(月)    | 益子の森・旧小宅小 会場スタッフ               | 2名 |
| 9/29(土)    | 益子の森・旧小宅小 会場スタッフ               | 3名 |
| 9/30(日)    | 益子の森・旧小宅小 会場スタッフ               | 1名 |
| 計 67名 (延べ) |                                |    |

#### 《考察》

ヒジサポの募集開始は2018年7月からで、活動人数としては上記の人数だが、今後、土祭直前ではなく長い期間をかけたボランティア募集の広報戦略を練る必要がある。今回は栃木県内の大学10校にボランティア募集のチラシ設置依頼をし、内7校で受け入れがあった。ただ、見込んだ成果は得られなかった。土祭を次世代へ引き継ぐためにも早い時期から大学生や高校生などの若い世代へのアプローチは積極的に行うことが望ましい。

ヒジサポはマガジンメールで招集をしたが、メールの返信を通しての参加は少なく、電話での招集となった。今後はヒジサポへの説明会を開き、参加希望の仕方などを説明する必要がある。

#### ②地域ボランティア

##### ・田野地区委員会

9/2 (日) のぼり旗立て 15名

|                 |      |             |                     |
|-----------------|------|-------------|---------------------|
| 9/22 (土)        | 田野地区 | 夕焼けバー会場設営   | 38名                 |
| 9/23 (日)        | 田野地区 | 夕焼けバー会場設営   | 21名                 |
| 9/24 (祝・月)      | 田野地区 | 夕焼けバー片付け    | 13名                 |
| ・益子地区委員会        |      |             |                     |
| 8/26 (日)        |      | 竹切プロジェクト    | 18名                 |
| ・七井地区委員会        |      |             |                     |
| 9/6 (木)         |      | のぼり旗・看板立て   | 10名                 |
| 9/10 (水)        |      | 夕焼けバー会場づくり  | 13名                 |
| 9/21 (金)        | 七井地区 | 地域プロジェクト 準備 | 8名                  |
| 9/22 (土)        | 七井地区 | 地域プロジェクト    | 15名                 |
| 9/23 (日)        | 七井地区 | 地域プロジェクト撤去  | 26名                 |
| 9/28 (金)        | 七井地区 | 夕焼けバー準備     | 16名                 |
| 9/29 (土)        | 七井地区 | 夕焼けバー       | 26名                 |
| 10/1 (月)        |      | 会場撤去        | 18名                 |
| ・田野地区・七井地区委員会合同 |      |             |                     |
| 8/26 (日)        |      | 竹切・のぼり旗作成   | 60名                 |
|                 |      |             | (田野地区 46名 七井地区 14名) |

計 297名

#### 《考察》

地区委員会に属する委員の働きかけにより上記の人数が集まった。地域に根付く祭りとして地域住民の協力があることは重要である。地域ボランティアでの活動の中に町外在住ボランティアの姿は見えなかった。今後は町外のボランティアと地域ボランティアの活動内容を分けることなく共に活動する機会を創出し、地域間を越えた交流を構築する。

#### ③展示ボランティア、④職員

##### 《実施の経緯と概要》

③④は主に土祭期間中のアート作品展示受付を担う。今回の土祭では、ヒジサポを募集し、町内外問わずのボランティア組織を立ち上げる構想だった。しかし、ヒジサポは十分に集まらず、8月から、各地の展示ボランティア（※）に声をかけ、事前説明を行なった。また役場職員向けの説明会を9月初旬に行なった。

割り当て作業に関しては展示ボランティアの方には事務局で依頼する会場を選定し、そこに会期中どれくらい参加が可能か調査を行なった。その後、割り当て表を作成し事前説明会の際に調整を行なった。

※以下が展示ボランティアとして活躍。

いきいきクラブ…各地の高齢者クラブ

## 悠楽塾…ボランティア団体

### 《成果と考察》

展示ボランティア向け、職員向けの事前説明会を開催したことにより意見の吸い上げを行うことができ、「受付の際のスタッフ、アーティストを見分けるための名札作成」などを実施した。

また、会期後の反省会では参加していただいた展示ボランティアの町民の方々からは「町外の方とお話する機会ができて嬉しい。」「自分たちの町にきてくれてとても嬉しい。」などの好意見が聞かれた。

展示受付では「アート作品の説明より、益子町の説明をすることが多かった。」という展示ボランティアの意見もあったが、今後は、アーティストの表現している作品をより一層説明できるようにアーティストと展示ボランティアの交流を行うことが望ましい。

### 3-3 企画運営参加者の満足度

土祭 2018 における企画運営参加者は田野・益子・七井地区委員、アート運営委員、世話人、作家、レクチャー講師、夕焼けバー出店者、演奏会出演者、土祭食堂出店者、ヒジサポ（会場設営・展示会場受付など）にあたる。有効回答数は 148 件である。

準備中および会期中の満足度について | ( ) 内は土祭 2015 の同質問での割合

|               | 準備中 |          |         |    |    |                | 会期中 |          |         |    |    |                |
|---------------|-----|----------|---------|----|----|----------------|-----|----------|---------|----|----|----------------|
|               | 委員  | 作家<br>講師 | その<br>他 | 職員 | 合計 | 合計<br>%        | 委員  | 作家<br>講師 | その<br>他 | 職員 | 合計 | 合計<br>%        |
| とても<br>楽しかった  | 4   | 6        | 18      | 0  | 28 | 80.4<br>(82.4) | 6   | 6        | 18      | 0  | 30 | 83.8<br>(82.2) |
| 楽しかった         | 10  | 2        | 26      | 0  | 38 |                | 14  | 0        | 26      | 4  | 44 |                |
| まあまあ<br>楽しかった | 8   | 0        | 8       | 0  | 16 |                | 6   | 2        | 16      | 26 | 50 |                |
| 少し<br>つらかった   | 12  | 0        | 2       | 0  | 14 | 19.6<br>(17.3) | 14  | 0        | 0       | 2  | 16 | 16.2<br>(17.8) |
| つらかった         | 0   | 0        | 2       | 0  | 2  |                | 0   | 0        | 4       | 2  | 6  |                |
| とても<br>つらかった  | 4   | 0        | 0       | 0  | 4  |                | 0   | 0        | 2       | 0  | 2  |                |

### 《考察》

「準備中」では、地域プロジェクトや会場設営などは各地区委員が行なったため、職員の記入は 0 となっている。意見としては「自分の仕事と調整しながらの準備作業だが、予定外の準

備作業がでたときは非常にきつかった。」「仕事の都合で準備が思うようにできなかった。」のように仕事との調整に関してや、準備段階における委員間での意見相違で戸惑うなどの意見もあった。

会期中の満足度は 83.8%に上昇しており、準備中から会期中に満足度が上がった方の意見としては「…(中略)…FBなどで投稿を見て素晴らしい作品を見られた事は益子町民としてうれしい。」「ワークショップ中、食をゆっくり食べる事が出来ない位多忙だったが達成感を味わった。」など、達成感を感じたという意見があった。

#### 4. 各企画における報告

##### 4-1 アート作品展示

会場ごとの展示は以下の通りである。

| 地区 | 作家名              | 履歴      | 作品ジャンル       | 会場           | 居住地  |
|----|------------------|---------|--------------|--------------|------|
| 田野 | 01 川崎 義博         | 2009～   | インスタレーション    | 山本八幡宮        | 茨城県  |
|    | 02 橋本 雅也         | 2012～   | 彫刻           |              | 神奈川県 |
| 益子 | 03 藤原 彩人         | 2012～   | 彫刻/インスタレーション | 元むらた民芸店      | 益子町  |
|    | 04 生井 亮司         | 2009～   | 彫刻           | 内町工場裏        | 小山市  |
|    | 05 NPO 法人 MCAA   | 初       | インスタレーション    | 城内坂大階段       | 益子町  |
|    | 06 douglas black | 2015～   | インスタレーション    | MCAA6gallery | 茂木町  |
|    | 07 KINTA         | 2009～   | 絵画           | 見目陶苑土空間      | 益子町  |
|    | 08 井賀 孝          | 初       | 写真           | 陶芸メッセ・益子     | 東京都  |
|    | 09 石井 匠          | 初       | インスタレーション    |              | 東京都  |
|    | 10 田中 望          | 初       | 絵画           |              | 宮城県  |
|    | 11 鈴木 昭男         | 2009 以来 | アーカイブ展示      | 益子陶芸村        | 京都府  |
|    | 12 古川 潤          | 2012～   | 彫刻           | 益子の森         | 益子町  |
|    | 13 仲田 智          | 2009～   | インスタレーション    | 旧民宿とき        | 茨城県  |
|    | 14 船越 雅代         | 初       | インスタレーション    | 西明寺コウホネ田んぼ   | 京都府  |
| 七井 | 15 植松 琢磨         | 初       | インスタレーション    | 旧小宅小学校       | 大阪府  |
|    | 16 村田 峰紀         | 初       | ドローイング       |              | 群馬県  |
|    | 17 浅田 恵美子        | 2015～   | インスタレーション    | 小宅古墳群        | 益子町  |

・会場数は13会場、作家数は17組（うち初が7組、町内作家が5組）

○奉納ダンス作品「地の時より空の時へ」|実施日9月15日[土]

ダンサー | 角 正之 音楽 | 川崎 義博 会場 | 山本八幡宮

《実施の経緯と概要》

人選 | 土祭 2015 では原案を事務局が作成し、土祭表現ディレクターと企画運営委員会とで協議し、決定していたが、今回はアート運営委員会を組織し、テーマ「土と益子 -この土地で共に生きる-」に沿った表現（「土」「益子」「この土地」「共に生きる」）ができる作家の協議・選定を行なった。川崎義博氏からは橋本雅也氏、鈴木昭男氏。藤原彩人氏からは井賀孝氏、石井匠氏、田中望氏、植松琢磨氏、村田峰紀氏。高山英樹氏からはNPO 法人 MCAA。藤原・高山両氏からは船越雅代氏がそれぞれ推薦され、作品制作を依頼した（当初藤原氏は作品制作の予定はなかったが、依頼した作家の都合がつかなかったため、急遽展示を行うこととなった）。

会場選定については後述する。

## 《成果と考察》

「毎年陶器市には伺いますが、いつも城内坂付近だったので、今回はいろいろな顔が見られて楽しかったです。」「益子焼や芸術による街づくりがとても上手く出来ている町と感じました」

「何度も訪れていますが、色んな企画が開催されていて飽きません。」などの意見が来場者から寄せられた。また、アンケート内の「よかった企画をお書きください」という質問で回答者の21.6%がアート作品展示を挙げ、地域プロジェクトに次ぐ満足度の高い企画だった。

## 4-2 地域プロジェクト[田野・益子・七井]

### [田野]

#### 《実施の経緯と概要》

1月の地区委員会から地域プロジェクトに向けた協議は始まり、2月の段階での案として「どんど焼き体験」、「稲刈り体験」、「田んぼ広場」、「田野地区めぐり」、「農の移り変わり展示」、「松本歌舞伎の展示」、「田野地区の紹介展示」の7企画が挙げられた。その後、「松本歌舞伎の披露」は歌舞伎舞台の設営にかかるコストや技術的な課題から今回は見送りとし、全6企画を実施することに決まった。

#### 《成果と考察》

##### ○どんど焼き体験・稲刈り体験・田んぼ広場 | 参加者100名（実施日9月23日[日]）

どんど焼き体験は、公式ウェブサイト、SNS、学校向けチラシで参加者を募集したが、申込みは少なかった。そのため16時半と18時の2回に分けて点火する予定だったが、18時のみの1回とした。点火にあたっては地元消防団の協力があつた。道の駅ましこから歩いて見物する来場者もいた。

稲刈り体験については事前の参加申込みはなかったが、当日に参加申込みがあり予定どおり実施した。参加者は県外からの来場者で、後・土祭にも来訪された。

田んぼ広場は竹で作ったサッカーゴールを設置し、子供たちが自由に遊べるスペースとして開放した。日中は田んぼに入って遊ぶ子供たちがおり、会場に賑わいがあつた。

##### ○田野地区めぐり | 参加者100名（実施日9月15日[土]～10月7日[日]）

田野地区内の4箇所（妙伝寺、光明寺、東田井鹿島神社、長堤八幡宮）にスタンプと台紙を設置した。スタンプをすべて揃えると後・土祭で抽選ができるという特典をつけた。「地元に住んでいるけど、今まで来たことがなかった。」や「このあたりは風景がよい」といった意見があり、田野地区の住民にとっても楽しめる企画であつた。また、9月23日[日]に東田井鹿島神社にて真言八祖絵図の特別展示を行い、40名の参加があつた。課題としては、アート作品展示のスタンプラリーと勘違いして、スタンプを押してしまうという事例があつた。

##### ○農の移り変わり展示 | （実施日9月23日[日]）

昔と今の農具を集めて展示し、農の変遷を紹介する企画。展示で使用する農具は、土祭新聞

で募集をするほか、地区委員の知人から提供を受けたものであった。昔の農具は、千歯扱き、唐箕、馬鍬など8種類が集まった。それぞれの農具には紹介文を貼り、どのように進化していったのかが分かるようにした。興味をもった子供たちが農具を手にとって遊ぶ光景がみられた。

#### ○田野地区の紹介展示 | (実施9月16日[日]~10月7日[日])

道の駅ましこの展示企画として多目的スペースで実施。紹介パネルの作成にあたって、田野地区の自治会長に地域の紹介文の作成を依頼した。住民団体の活動や地域の例祭を写真つきで紹介した。

地域プロジェクトの総括として、「稲刈り体験」や「農の移り変わり展示」のように益子町の中でも、特に農業が盛んな田野地区ならではの企画が実施された。このような企画を、周辺ののどかな田園風景が広がる道の駅ましこで行うことによって、来場者に田野地区の風土を強く印象づけることができたと思われる。

反省としては、体験型企画の参加者が少なかった点である。地区委員会と事務局が連携して、企画の魅力を多くの人に発信することが必要であった。

#### [益子]

##### 《実施の経緯と概要》

益子地区の地域プロジェクトについては平成30年3月の地区委員会から協議が始まった。その中で「農機具展示」、「昔の学校給食を食べる」、「土で遊べるスペース」、「トレジャーハンティング」が案としてあがった。「農機具展示」は田野地区地域プロジェクトの「農の移り変わり展示」と同内容となり取りやめ、「土で遊べるスペース」は原土プロジェクトで実施。「トレジャーハンティング」は益子地区の名所を探すことと再発見の意味を含めて「昔の益子探し」と名称を変更。昔の益子の風景写真をパネルにし、問題を作成する予定であったが、文章のみの問題パネルに変更となった。また今回土祭の会場が広がったことと合わせて、星の宮地区において「1日限定の星の宮神社ライトアップ」の提案があり、内容を協議した。

##### 《成果と考察》

#### ○昔の益子探し | 参加者200名 (実施日9月15日[土]、16日[日]、22日[土]、30日[日])

問題パネルを10カ所(益子駅、土祭広場、綱神社、星の宮神社、真岡鐵道小貝川橋梁、新町彫刻屋台、太平神社あじさい山、内町彫刻屋台、益子稲荷神社、濱田庄司記念参考館)に合計22問の問題が書かれているパネルを設置。益子駅に設置された「ここは何駅?」のように簡単な問題の他、綱神社に設置された「宇都宮家が北関東に勢力を誇っていた鎌倉~江戸時代初期までは、大羽は「大羽まち」として近郷近在からの参詣が多くとても栄えていた。武士や商人たちが常陸や鎌倉からも来ており、その頃から七つの名所や七つにちなんだ言い伝えが作られた。言い伝えとしてないものは次のうちどれか?」のような地元の歴史に関する問題も設置さ

れた。参加された方からは好評で「益子在住なのに意外と知らないことが多かった」「絶対合っていると思った問題が間違っていて、新しい発見ができたのが面白かった」など、答え合わせをする際に色々な声があった。

○昔の学校給食を食べる | 参加者 600 名 (実施日 9 月 22 日 [土])

30～40 年前の学校給食のレシピを再現。カレーライス・焼きそば・けんちんうどん (ソフト麺使用) の 3 種類のメイン料理から一つ選び、その他そばろパン・牛乳・ミルク・ゼリーのセットメニューとして 90 食分を販売。その他そばろパンは単品でも販売し、配膳には益子焼を使用。益子保育園・たから幼稚園・みどり保育園・綱神社太々神楽に出演していただき、場を盛り上げてもらい出演者には給食を振る舞った。後半は栃木 SC の選手にもトークショーに出演していただき、給食を含め食事の大切さについて話してもらった。給食は準備数完売となった。

○星の宮神社ライトアップ | 参加者 300 名 (実施日 9 月 22 日 [土])

LED の入った風船を 700 個準備し、参道の両脇の林の中に配置。「星の宮」の名前の由来となった「北斗七星」などの星をイメージした演出を地区の方々が企画し準備を行なった。下野新聞にも取り上げられ、普段とは違った幻想的な雰囲気が演出できた。

地域プロジェクトの総括としては、地区委員が少なく担当が他の地区のように細かく振り分けられなかった点が挙げられる。その結果として、地区委員 1 人当たりにかかる負担が大きくなった。役割の明確化がされていなかったことで企画内容の協議が進まないこともあった。益子地区委員が少なかつた理由としては過去の土祭で参加した経験のある地域住民を巻き込めなかつたことが原因に挙げられる。今後、多くの地域住民に土祭へ参加してもらうには継続して土祭に参加したいと思えるような仕組みづくりが必要である。

[七井]

《実施の経緯と概要》

平成 30 年になり、1 月から土祭の企画や運営について協議が始まった。

全 6 回の会議で、七井地区には文化財やましこ世間遺産が多数現存することに注目し、9 月 22 日 (土) に小宅古墳群をメインに、七井地区内に点在する文化財やましこ世間遺産を紹介し回遊してもらう企画に決定した。

紹介する文化財やましこ世間遺産の選定と紹介文の原稿を、文化財に詳しく地区委員でもある橋本澄朗氏にお願いし、20 箇所を紹介するマップを作成した。

その中で今回回遊してもらう会場として、「小宅古墳群」「円通寺」「北中八幡宮」「浅間塚古墳」「安善寺」の 5 箇所のパネルを作成し、最終案内会場を小宅古墳群となるようマップによりルート案内をすることとなった。

小宅古墳群では、地域のお囃子や獅子舞によるステージイベントや地域の女性グループによる豚汁の無料配布、地域の団体による物販による食のおもてなしや小学生を対象とした竹細工によ

るワークショップなど実施することとなった。

《成果と考察》

○七井地区歴史探訪 | 参加者 350名（実施日9月22日[土]）

最初に、拠点である小宅小学校でパネルやマップを参照し、文化財の所在地を確認してから、レンタサイクルなどを活用し自由に散策してもらった。

小宅古墳群では、お囃子、尺八、獅子舞のステージイベントや地域の女性グループによる豚汁の無料配布や物販で来場者に対して食のおもてなしも行なった。

また、小学生を対象としたワークショップについては、事前に町内の4小学校に周知したことによる効果から、多くの来場があり盛況であった。

委員からは、「みんなと協力して準備を進めることができとても楽しかった。」「他の地域の方と出会えて楽しかった。」などの声が多々あった。反面、七井地区は「何もないところに会場を設えていかなければならないのでとても大変だった。」などの声もあった。

#### 4-3 手仕事村・原土プロジェクト

《実施の経緯と概要》

手仕事村プロジェクト

当初企画書内では小規模で実施する予定であったが、「無理に運営する必要はない。」という意見もあり一時実施を見合わせた（意見 | 同じ会場での集客の難しさ、竹テントなど会場設営者不在など）。

会議を進めていく中で、アート運営委員会からは「手仕事村は継承プロジェクトであり、すでにコミュニティはできている。予算さえあれば会場設営も含めて任せられる。」という意見があり、実行委員会の承認を得て、実施を決定した。土祭 2015 に手仕事村に参加した笠間市在住の井上綾氏・須知大氏に企画の相談をし、会場での火器使用など土祭 2015 と同内容の企画を催せることを条件として手仕事村実行委員会を組織してもらい、企画運営を委託した。火器の使用と集客の観点から会場は陶芸メッセ・益子の芝生広場ではなく益子の森のひだまり広場とし、アート作品展示と宿泊施設があることから集客に繋がると判断した。

出店者については手仕事村実行委員会から町内外の作家や飲食販売店に声をかけたほか、土祭新聞で出店者を募り、飛び入り参加を可とした。会場設営に関しても手仕事村実行委員会主導で行われ、間伐材の切り出しからパフォーマンスを兼ねて会期中も小屋の建築を行なった。

原土プロジェクト

土祭 2015 では原土会と地元の陶芸家たちで作品展示を行なったが、今回は作品の展示が難しく、ワークショップ形式でのプロジェクトとなった。経緯としては益子地区委員会で「土と遊べるスペース」を企画していたが、他地域プロジェクトとの担当調整と益子地区委員の負担軽減のため一つのプロジェクトとして独立。手仕事村の集客面での懸念が当初あったため同じ会場での

実施とし、小屋も共同で使うこととし、ひだまり広場を一大イベント会場とした。

#### 《成果と考察》

手仕事村（実施日 9 月 15 日[土]、16 日[日]、17 日[月・祝]、22 日[土]、23 日[日]、24 日[月・祝]、29 日[土]、30 日[日]）

実施 8 日間での出店者の概要は下記の通りである。

| クラフト系 | 実演系 | 飲食系 | ワークショップ系 | 棟数 | 参加総数 |
|-------|-----|-----|----------|----|------|
| 13    | 1   | 13  | 9        | 32 | 96   |

原土プロジェクト（実施日 9 月 16 日[日]、17 日[月・祝]、23 日[日]、24 日[月・祝]）

実施されたワークショップとしては、土人形作り（焼成代含め 1,000 円）、泥染め（500 円）、粘土プール（無料）、パネル泥絵画（無料）である。

来場者数に関しては手仕事村が 3,198 名、原土が 480 名であった。小屋の建築は会期終了間際に完成した為、完成してすぐに解体しなければならないことを惜しむ声が運営者・出店者からあがった。

手仕事村・原土プロジェクトともに NHK、とちぎテレビの土祭特集に取り上げられ、来場者・ワークショップ参加者のみでなく運営側のスタッフ・出店者にも好評だった。アンケートでも「のどかな益子の森の芝生広場で作家さんが手仕事をしている姿はとても素適でした。私も次回出来るならば自分の仕事を持ち込んでやってみたいと思いました。」「色々な手仕事を見る、触る、聴く、感じる事が出来て嬉しかったです。村民さん達とのコミュニケーションが楽しかったです。」などの意見が多く、次回再度開催する場合は小屋をより長い期間設置できる場所で、「手仕事村」という名称にこだわらない形で規模を拡大して開催することも可能と考える。

#### 4-4 オカリナプロジェクト（実施日 10 月 7 日[日]）

##### 《実施の経緯と概要》

平成 29 年 10 月にオカリナ奏者である宗次郎氏に益子大使（国内外へ益子の魅力・実力を PR することと地域愛着醸成を趣旨に委嘱）を依頼した際に、「土祭で町内の子供たちとの演奏会が出来ないか。」の提案があり、教育委員会及び校長会の協力により、ジョイントコンサートの開催が実現した。町内の小学校に募集をして、3 小学校から 12 名の児童と関係者 1 名の計 13 名の参加があった。

指導者として元益子中学校長の石塚正美氏に依頼し、5 月から 9 月まで公民館において月 2 回の練習を重ねた。

10 月 7 日(日)の当日は宗次郎氏のソロコンサートと子供たちとのジョイントコンサートが、きれいな星空のもと土舞台で開催され、大勢の来場者をオカリナの音色で魅了した。

#### 《成果と考察》

最初は、音色もそろわず自信がないせいか音量も小さかった。

しかし当日は、宗次郎氏から音量、音色とも申し分ない素晴らしい演奏でしたとお褒めの言葉があり、児童たちからも「オカリナを今後も続けていきます。」と力強い宣言があった。

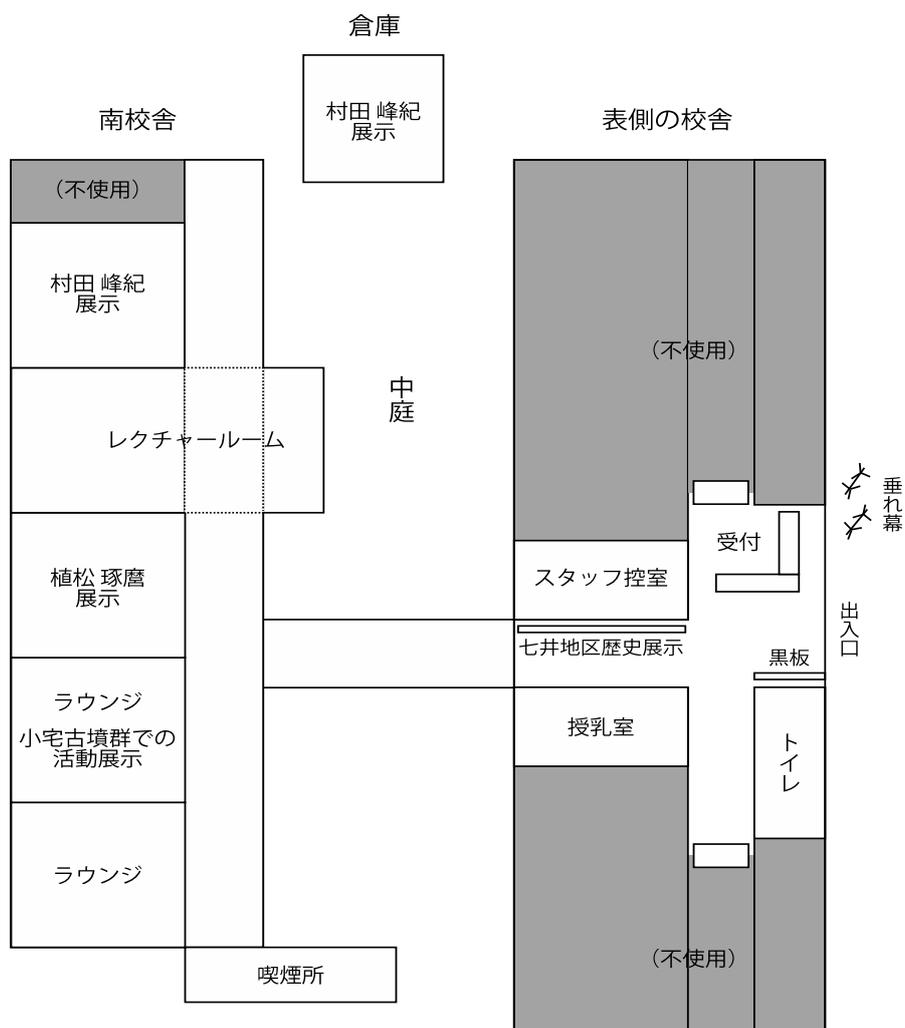
当初は、9月30日(日)の日中に小宅古墳群でジョイントコンサート、夕刻からソロコンサートと予定していたが、台風24号の接近の影響で1週間延期となり周知活動が足りない点が見受けられたが当日の大盛況と、宗次郎氏から、「また益子で演奏会をおこないたい。」との言葉があり無事にプロジェクトを終了することが出来た。

#### 4-5 旧小宅小プロジェクト

##### 《実施の経緯と概要》

学び舎としての背景や七井地区円通寺にある大沢文庫の存在の意味からも「学び＝発見や気づき」を生み出す場として現在廃校となっている旧小宅小学校を使用する企画をアート運営委員会が立案。「土と益子」というテーマから人間の営みに繋がる様々な関係性を気付くきっかけを作る試みとして、①「様々な視点の専門家を講師とし、人間と地球との関係性を学ぶレクチャーを行う（解剖学、考古学、探検家、民俗学、天文学等）」、②「様々な関係性をつなぐ単位として人間の身体や物質を1つの比喩として表現を行う作家の展示を行う」、③「七井地区をはじめとした益子の歴史やそれに伴う場所を知ることが出来る空間であったり、レクチャーのアーカイブが聴講できたりする地元の方と来場者が集い、交流が出来る空間としてラウンジを計画する」という3つの要素を柱とした。

旧小宅小学校の使用については町企画課と協議の結果、南校舎をメイン会場として使用し、表側の校舎は耐震問題があるためエントランス、トイレ、保健室、資料室を使用する計画とした(下図参照)。



《成果と考察》

①「様々な視点の専門家を講師とし、人間と地球との関係性を学ぶレクチャーを行う（解剖学、考古学、探検家、民俗学、天文学等）」について

アート作品を展示している石井匠氏の仲介により、民俗学者の赤坂憲雄氏、探検家の関野吉晴氏にレクチャーを依頼。石井匠氏自身も考古学の専門家としてレクチャーに参加。その他アート運営委員の藤原彩人氏から解剖学者の阿久津裕彦氏、アート作品展示作家の植松琢磨氏経由で国立天文台の広報普及員である羽村太雅氏にレクチャー・トークショーを依頼した。その他民藝を専門とする鞍田崇氏にも土祭 2018 のテーマ「土と益子」に関連してトークショーを依頼し、土祭副実行委員長の大塚一弘氏と対談した。レクチャーのテーマ、スケジュール等は次の通りである。

| 実施日     | 講師     | 対談者・司会     | タイトル                              | 来場者数 |
|---------|--------|------------|-----------------------------------|------|
| 9/16[日] | 赤坂 憲雄  | 山崎 光男・石井 匠 | いのちの交歓<br>～土と食の神話と現実～             | 40   |
| 9/17[月] | 鞍田 崇   | 大塚 一弘      | 手と土                               | 70   |
| 9/22[土] | 関野 吉晴  | 高山 英樹・石井 匠 | いのちの交歓<br>～生きること・旅すること<br>・つくること～ | 60   |
| 9/23[日] | 羽村 太雅  | 植松 琢麿      | 星の子が織りなす<br>自然と美をめぐる              | 60   |
| 9/29[土] | 阿久津 裕彦 | 藤原 彩人      | 生命形態の歴史と環境                        | 30   |
|         | 石井 匠   | 藤原 彩人      | いのちの交歓<br>～芸術の在り所と行方～             | 30   |

レクチャー以外の内容は次の通りである。

| 実施日     | 内容                          | 来場者数 |
|---------|-----------------------------|------|
| 9/16[日] | 鈴木昭男 サウンドパフォーマンス            | 50   |
|         | 鈴木昭男×KINTA トークショー「日向ぼっこの空間」 |      |
| 9/22[土] | 映画上映「僕らのカヌーができるまで」          | 60   |

②「様々な関係性をつなぐ単位として人間の身体や物質を1つの比喩として表現を行う作家の展示を行う」について

アート運営委員の藤原彩人氏からの推薦で下記の2名の作家に展示を依頼した。

- ・植松琢麿 | 自然科学における興味から、人と動物、人工と自然、意識世界と現実世界など、一見相反する事柄の共通項や境界を探りながら、日常への新たな視点を表現。
- ・村田峰紀 | 原始的身体所作で強いインパクトを与えるドローイングパフォーマンスや、その結果として産み出されるインスタレーション、ドローイングを発表している。

③「七井地区をはじめとした益子の歴史やその伴う場所を知ることが出来る空間であったり、レクチャーのアーカイブが聴講できたりする地元の方と来場者が集い、交流が出来る空間としてラウンジを計画する」について

表側校舎から南校舎に抜ける廊下に七井地区の地域プロジェクト「七井地区の歴史探訪」のパネル・資料を設置し、地区内の寺社や古墳などの紹介を行なった。その他小宅古墳群の菜の花を利用して菜種油を製造・販売を行なっている Neharu に依頼し、休日のみだがラウンジで飲食物販売・グッズ販売、小宅古墳群での地域の方々の活動内容を双六風にまとめた展示をした。ラウン

ジにはキッズスペースを準備した他、土祭 2018 に参加する作家・講師の著書を読めるようにした。

レクチャーは客席を 40 席準備したが、立ち見が出るが多かったためラウンジからベンチや学校椅子を移動してくることが多々あった。また 9 月 14 日[金]には原因不明の停電が起き、翌朝電気が復旧していることがあった。レクチャーの際にはプロジェクターの他にも扇風機やパソコン、その他を使用するので、公演中に再び停電する懸念があったがその後期間中何事もなかった。

また、展示教室の電灯が点灯しない、上水道が出ない箇所があるなど、次回再度使用する場合はハード面の補修が必要となる。

#### 4-6 ゲストハウスプロジェクト

##### 《実施の経緯と概要》

前回までの土祭で作家が滞在するための宿泊施設が求められていた。そのため現在、営業をしていない旧民宿ときが候補となり、所有者との交渉で借用が可能になったため旧民宿ときでのプロジェクトが進められた。

次に 2020 年にゲストハウスをオープンすることを目標にしていたが、屋根の改修費用や床の改修費用など多額の費用がかかる課題が挙がり会期前・会期中における宿泊施設としての利用とワークショップの会場としての利用に切り替えた。

##### 《成果と考察》

ゲストハウスとして整備していく中で、改修の必要な箇所がでてきた。それに対し、業者に見積りをもらったが、予算と合わず依頼が難しくなった。そのため、自力でできる範囲での改修を考え、改修が必要な箇所の構造や木材の種類などの調査を始めた。しかし、専門知識の不足からこの調査は長引き、改修やプロジェクトに添ったイベント企画が後手に回ってしまった。そのため、会場としての利用と建物の既存機能の活用の 2 点を軸にプロジェクトを進めた。

会場としての利用ではワークショップの会場として利用した。土祭会期中の日中に光る泥団子ワークショップが開催されており、旧民宿ときでは 19 時 30 分から 20 時 30 分の夜に行なった。日中に参加のできないお客様 2 名が町外から来られていた。

建物の既存機能の活用には会期前の長期滞在の作家向けの宿泊施設として利用をした。しかし、宿泊料が無料とはいえ旧民宿とき内の掃除などを作家自身が行うなどホスピタリティに欠ける点がいくつかあった。その反面、宿泊した作家同士が寝食を共にするということもあり、コミュニケーションの場としての機能を持つことができた。

本企画の将来的な目標としてゲストハウスの 2020 年のオープンを掲げていたが実現まで至らなかった。今後は「企画段階での事前調査」や「業者や専門家との協力」「プロジェクトチームの形成」「関係者同士のコミュニケーション」の 4 つの要素を実行することが望ましい。

○9/24 (月・祝) 光る泥団子ワークショップ 4 名

○会期前・会期中 宿泊数 70 泊

4-7 夕焼けバー（実施日 9 月 16 日[日]、23 日[日]、29 日[土] 雨天中止 9 月 15 日[土]、30 日[日]）

#### 《実施の経緯と概要》

夕焼けバーは、土祭 2015 のコンセプトである「この土地の風土から生まれた食を今につなぎ、これからこの土地の風土から生まれる食を分かちあう機会」を継承した。そこで 8 月に出店者向けに説明会を実施し、益子焼や益子産食材の使用を呼びかけ、夕焼けバーの趣旨の理解を促した。

また、前・土祭 2017 から田野・益子・七井の各地区委員会が組織され、夕焼けバーの企画・運営を担うことになったため、以下のような変更点があった。

##### ○主な変更点

- ・会場を従来の土祭広場のほかに道の駅ましこ、七井駅前でも実施した。
- ・公募によって、出店店舗の選考を行なった。公募は web、自治会回覧を用いた。
- ・地区委員会、出店者の要望により出店ブースの照明を明るくした。
- ・ボランティア用の食券で精算できるようになった。
- ・出店料の 2,000 円は、皿洗いに 4 時間従事すれば免除とした。

#### 《成果と考察》

##### ○出店店舗

出店店舗は町内より 24 店舗、町外より 2 店舗、計 26 店舗となった。また町内 24 店舗のうち 8 店舗は地域のグループでの出店であった。今回から地区委員会主導の企画となったため、地域のグループからの積極的な参加があった。

##### ○会場設営

会場設営は地区委員会からの呼びかけにより地域のボランティアの協力が得られた。土祭広場で使用する長屋を道の駅ましこと七井駅前に運ぶことができないため、新たに出店ブースを 13 棟用意した。

出店者からの意見で「お客様への呼びこみが増えて、騒がしく、1 回目の土祭より段々と違う方向に行っている気がしてきています。」という意見があった。出店者向けの説明会では、スケジュールやルールなど事務的な内容だけでなく、土祭の趣旨を丁寧に説明し、理解いただくように努める必要がある。また、今回、新規での出店が多かったが、今後夕焼けバーに継続的に出店してもらうことで、夕焼けバーならではの趣を継承していくことが大事である。

#### 4-8 土祭食堂（実施日 9 月 15 日[土]～24 日[月・祝]、26 日[水]～30 日[日]）

##### 《実施の経緯と概要》

食を通して益子の風土を体感していただくことを目的に、道祖土地区にある元 KENMOKUcafe を会場に、田野地区、益子地区、七井地区から出店者を募り 3 グループが出店し、土祭期間中の 14 日間営業をした。9 月 15 日(土)～19 日(水)までは、益子地区の千とマロンと tenteko が TenMaroCafe としてパスタランチとスイーツ各種を提供、20 日(木)～24 日(月)までは、七井地区の菘そばが、益子産そば粉を使った天もりそば等のそばメニューを、そして 26 日(水)～29 日(土)までを田野地区の女性グループが里山ガールズのソウルフードとして山菜おこわをメインとしたメニューで、来場者をもてなした。期間中合計で 583 食を売り上げることができた。

##### 《成果と考察》

運営メンバーからは、「お客さんから料理に対してのお褒めの言葉をいただいたことが大変うれしかった。」という意見や、「準備から協力し合えて楽しくできた。」という声があった反面、天候に恵まれなかったことや、会場が 3 地区に分かれた結果、人の流れも分散してしまい来場されるお客様が前回より減ってしまったとの声もあり、実施方法や会場について次回開催の検討課題となった。

#### 4-9 食プロジェクト（実施日 9 月 24 日[月・祝]）

##### 《実施の経緯と概要》

土祭 2018 のテーマとして「土と益子」「風土」「歴史」など人々の営みを考えるものという視点を重要視し、アートの領域から「食べること＝生きること」を考えるプロジェクトをアート運営委員会が立案。このプロジェクトの実行に向け、その土地の歴史や風土を丁寧にリサーチし、地元産の食材を使い、料理を通して世界で活躍している京都在住の芸術家、船越雅代氏に依頼した。

船越氏は平成 30 年 1 月末と 2 月末に来町し、プロジェクトが実施可能なのか視察を行なった。その結果西明寺コウホネの田んぼにて植物を植え、同会場に土でテーブルや椅子、かまどをつくり料理を振る舞うイベントを行うことになった。イベントの前後は土で作られた舞台がアート作品として鑑賞することができた。

##### 《成果と考察》

船越氏の来町は台風などの影響もあり予定通りに進めることが出来ず、開幕後も会場制作を行う形となった。そのため、「なぜ制作途中なのか」、「なぜ重機がその場においたままなのか」などの指摘があった。展示会場への来場者に状況を説明するスタッフを配置していなかったことが原因として考えられる。また、関係者間での来場者に対する的確なご案内をするための連携が不足していた。

イベント自体は十五夜となる9月24日[月・祝]に2回、各回40名限定の完全予約制で行われ、両回とも満席となった。メニューとしては「丸猪 穴窯焼」「かぼちゃ 陶土包 穴窯焼」「益子味噌 栗 葉生姜のたれ」「晩夏の野菜、古代米、柿の和えもの、神谷さんの梅干、ココファームの Verju Grape seed oil、土地の蜂蜜のヴィネグレット」「益子の小麦と蕎麦粉のフラットブレッド」「林檎と肉桂の飲み物」が振る舞われた。盛り付け済みのものをテーブルに置いていくのではなく、食事を配膳するスタッフが穴窯の通路からテーブルに向かって歩き、一品ずつ事前に置かれている皿に盛り付けるパフォーマンスも行われた。会場としては土地所有者の山崎光男氏のご厚意により現在も残されており、年月とともに風化していく展示作品となっている。テーブル、椅子、穴窯がそのままの姿となっているので、当分の間コンサートや同様の食のイベントなど、土祭以外のイベントでも使用可能と考えられる。

#### 4-10 関連企画

##### 《実施の経緯と概要》

「町民主導」の一環として土祭期間中に町内の施設・店舗・個人がイベントを行う場合は公式ホームページ、SNS、告知が早い場合にはガイドブックに掲載し広報を行うことにし、予算は割り当てないこととした。また、企画内容についてはある程度土祭のテーマに沿ったもので、イベント期間が土祭の会期中であり、主催者側からの掲載依頼やアート運営委員からの推薦があれば広報を行なった。

##### 《成果と考察》

土祭2018の関連企画として広報を行なったものは下記の通りになる。

| 企画名                  | 会期                 | 来場者数 | ガイドブック掲載 | SNS掲載 | HP掲載 |
|----------------------|--------------------|------|----------|-------|------|
| この土地で生きることの祭「土祭」展    | 8/18～10/8          | -    | ○        | ○     | ○    |
| 講演   建て築く、風景。        | 9/15               | 50   | ○        | ○     | ○    |
| 土祭風景遠足               | 9/17, 29           | 24   | ○        | ○     | ○    |
| Art into Life 2days  | 9/17, 22           | 85   | ○        | ○     | ○    |
| 藤原彩人<br>オープンアトリエ     | 9/18～28<br>(土日祝休み) | 59   | ○        | ○     | ○    |
| 私の建物<br>「三人の形」       | 9/6～24<br>(月曜休み)   | 80   | ○        | ○     | ○    |
| 土と人                  | 9/22               | 350  | ○        | ○     | ○    |
| お月様、学んで作って<br>観てみよう！ | 9/22               | 60   | ○        | ○     | ○    |

|                       |          |    |   |   |   |
|-----------------------|----------|----|---|---|---|
| 書道ワークショップ<br>「筆にまかせて」 | 9/28, 29 | 20 | ○ | ○ | ○ |
|-----------------------|----------|----|---|---|---|

上記企画以外にも会期中に実施されている企画についてアート運営委員から推薦のあったものについてはFacebook や公式ホームページにて周知を行なった。広報の基準が「土祭会期中に行われているイベントでアート運営委員からの推薦のあるもの」だったので、今後に向けては広報掲載の基準を再設定する必要があると感じる。また、早い段階で、住民説明会を行い町民からの関連企画を求める必要があったと考える。町民主導への移行を目指す土祭にとって関連企画は非常に重要な要素になると考えられる。

## 5. 広報・メディア制作における報告

### 5-1 実施概要

#### 《実施の経緯と概要》

#### ○リリース・パブリシティ活動

6月：都内記者会見にて概要版リリースを配布

7月：7月版リリース送付（都内メディア22社、県内メディア16社）

掲載依頼（都内情報誌3社）

8月：8月版リリース送付（メディア・文化施設・教育機関等計149件）

掲載依頼（県内新聞社4社）

#### ○ポスター | 配布部数 433（うち町内 150）

土祭2015企画「土祭風景遠足」の写真をもとにしたポスターを5月に100部制作し、町内の店舗向けに配布した。その後、7月に町外の文化施設・教育施設向けのポスターを新たに制作した。7月制作版に使った写真は、益子のそば畑を撮影したものである。

#### ○フライヤー | 配布部数 19,600

前回は4月に予告フライヤー、7月に詳細フライヤーを制作したが、今回は8月の詳細フライヤーのみとした。メインビジュアルは、土祭2015企画「生け花LIVE」の写真を使用し、サイズは当初、前・土祭2017と同様に「B4十字折り」とする予定だったが、アート委員会の提言により「A3見開き」とした。

#### ○公式ウェブサイト

6月1日にページタイトルを「土祭2015」から「土祭2018」にリニューアルし、その後必要に応じて情報を更新していった。

アクセス解析による訪問者数は11,952人、ページビュー数83,799件（集計期間9月15日～10月7日）

※前回、前々回は集計期間を6月15日から9月30日としていたが、今回はアクセス解析に関する引継ぎが円滑でなかったため6月15日からの集計結果を計測できなかった。土祭2018では開催期間のみの集計とし、次回からの集計では前回、前々回と比較できるよう6月15日から9月30日の集計期間とする。

#### <参考>

2015 訪問者数 60,572人 ページビュー数 220,355件

2012 訪問者数 57,148人 ページビュー数 321,112件

#### ○公式SNS（Facebook、Twitter、Instagram）

公式SNSの統一的な運用のため、「公式SNS（Facebook、Twitter及びInstagram）運用方針」

を定めた。

- Facebook

2012年2月に開設したアカウントを継続使用。プロジェクトの進行状況や、参加者申込み、作家紹介などを投稿した。投稿数180件。

ページ読者（いいね！の数）は、土祭2018終了時点で4,304人。

<参考>

土祭2015 4,001人

土祭2012 1,789人

- Twitter

土祭2018での発信は2回のみで、投稿内容は土祭専任サポーター募集に関するものであった。新たにInstagramでの発信するにあたりTwitterとの両立が難しいため、発信は休止した。フォロワー数は土祭2018終了時点で1,021人。

<参考>

土祭2015 1,053人

土祭2012 データなし

- Instagram

近年、アクティブユーザーが増加しているInstagramで、新規客層を獲得すべく2018年4月26日にアカウント開設。土祭2018終了時点323人。投稿数141件。

### ○公式ガイドブック

A5 左あき 無線綴じ 72ページ 10,000部 1,000円（税込み） 9/3発売開始

※ガイドブックが各会場の入場パスポートとなる。

- 販売方法については [ガイドブック販売と配布実績] を参照。

- 内容について

前回の112ページから大幅にページ数を削減。前回はイベント情報のほかに「益子の風土性と、その風土性と密に関わり合いながら暮らす人の生を伝える物的記事」を組み入れたが、今回はイベント情報に絞った構成とした。そのためページ数は前回より40ページの削減となった。

### 《成果と考察》

#### ○公式ウェブサイト

「特に開催期間前のウェブサイトの更新が遅く、イベントの事前告知としての役割を十分に果たせていなかったように思えた。」等の意見があった。その要因として「各企画の決定の遅れ」「広報人員の不足による情報の遅滞や混乱」「各情報伝達手段の役割の不明確化さ」が挙げられ、情報の迅速化のためには体制からの改善が必要である。

#### ○公式ガイドブック

関係者アンケートでは、「公式ガイドブックは専門的で、内容がむずかしい。マンガ的な編

集を」や「やや重苦しい印象。メインコンセプトをより明快かつ明るい印象のものにすると良いのではないか。」という意見があり、専門的で難しい、暗いといったイメージをもった人がいる反面、「手作り感があって、土祭の主旨にあってとても良かったと思います。」との意見もあり賛否は分かれた。作成にあたっては土祭のイメージを残しつつも、読み手にとって読みやすく、手にとってもらえるようなバランスのとれた構成が必要である。

## 5-2 広報活動やメディア制作での成果

### (1) 掲載されたメディアの報告

#### 《新聞》

- ①下野新聞 8/7 「土祭彩るヒガンバナを 球根植栽 地元尽力、広がる支援」  
8/21 『土祭』歩み振り返る」  
9/9 「暮らし楽しむ『益子流』」  
9/15 「それぞれの土祭」 藤原彩人、大塚一弘、小玉貴浩インタビュー  
9/21 「里山の魅力多彩に体験」  
9/25 星の宮ライトアップ「光る風船ふわり」  
9/26 「食プロジェクト」、「昔の学校給食を食べる」、「稲刈り体験」
- ②真岡新聞 9/14 「3 地区委員会リーダーの高野（田野）、大塚（益子）、清水（七井）にインタビュー」
- ③読売新聞 9/15 「益子『土祭』今日開幕」各プロジェクト、オカリナ演奏紹介
- ④朝日新聞 9/16 「益子・土祭きょう開幕」KINTA（見目陶苑）紹介
- ⑤毎日新聞 9/16 「見て食べて益子堪能」夕焼けバー、関野吉晴紹介
- ⑥産経新聞 9/17 「益子の魅力を体感して」土人形作り（益子の森ひだまり広場）紹介
- ⑦栃木南部よみうりタイムス 9/7 『土祭』展開催中 道の駅ましこ 10月8日まで」

#### 《ウェブマガジン》

- ①中川政七商店運営さんち編集部 web サイト「さんち～工芸と探訪～」 9/20「窯業と農業の町・益子町の魅力を堪能する『土祭 2018』」
- ②アウトドアカルチャーニュースサイト Akimama 9/20「3年に1度のお祭り！陶芸・ものづくりの町、益子で行われている『土祭／ヒジサイ』に参加してみませんか？」
- ③キナリノ 9/10「土祭 2018」
- ④pelulu 8/30「うつわの町、益子の一大イベント『土祭 2018』が開催！ 様々な企画で益子の文化を発信」
- ⑤AXIS 9/19「栃木県益子町で『土祭 2018』が開催中 関連イベントで音楽家・高木正勝氏のピアノソロライブも」
- ⑥Future is now 10/22「第1回大塚町長が語る、土祭ができるまで」 11/3「第2回地域の声から辿る、土祭のカタチ」

《テレビ》

- ①NHK 首都圏ニュース 9/16 「原土プロジェクト」「手仕事村」紹介
- ②とちぎテレビ 9/15 「益子町で3年に1度のイベント『土祭』と『さんぽ市』」  
9/25 「『食』と『芸術』自然の中で囲む益子『土祭』」  
9/27 「陶器の里益子 3年に一度の『土祭』」
- ③宇都宮ケーブルテレビ 9/21 内覧会の様子、井賀孝（陶芸メッセ益子旧濱田邸）

《情報誌》

- ①月刊誌「旅の手帳」9月号 祭事や無形民俗文化財をメインに、ユニークな祭りも織り交ぜて紹介
- ②タウン情報もんみや
- ③月刊誌「地域人」第38号 伝統と未来をつなぐ変容する祭りとして紹介

(2) 自治体・大学から寄せられた関心

《事前視察や参加》

- ①東洋大学ソーシャルデザインスタジオ
- ②那須塩原市 企画部企画政策課、教育部生涯学習課

《成果と考察》

県外向けのPRとして情報誌への掲載が効果的であるとの考えから、7月中旬から8月にかけてリリースや掲載依頼を行なったが、掲載実績は3件であった。情報誌へ掲載してもらうには、土祭のコンセプトや実施内容を簡潔に分かりやすく説明し、記者の興味を引くようなリリース資料を作成することが重要である。

また、今回、ウェブマガジンに対する記事掲載の働きかけが会期直前になってしまい、効果的な広報活動が行えなかった。情報化社会の進展に伴いさらにウェブ上での広報活動が重要になっていくため、ウェブにある程度特化した広報戦略を立てるべきと思われる。

## 6. 準備・運営・サービスにおける報告

### 6-1 会場選定

#### 《実施の経緯と概要》

##### ○アート作品展示

会場を3地区に広げると同時に土祭検討委員会の「第3回前土祭・第4回土祭に関する提言書」(以下、提言書とする)から「展示会場をコンパクトにまとめる」、「徒歩圏内にまとめる」ためにアート運営委員と土祭事務局とで平成29年8月から踏査を開始。益子地区は会場の再利用や徒歩ルート上にあるものを候補にあげ、田野・七井地区は寺社やましこ世間遺産に登録されている場所、地区のランドマークを中心に踏査し、選定した会場をアート作品の作家に提案、交渉を進めた。

##### ○地域プロジェクト

前・土祭の会場を再度使用し、それ以外の会場は各地区委員会の地域プロジェクトと連動させて会場を決定。

##### ○手仕事村・原土プロジェクト

土祭2015では陶芸メッセ・益子の芝生広場を使用したが、火器使用の不可と誘客しにくい点から会場を益子の森のひだまり広場に変更。

##### ○ゲストハウスプロジェクト

益子地区委員からの推薦があり、アート運営委員と事務局で旧民宿ときを踏査。建物西側は雨漏りしており屋根の補修が必要だが、東側の客室は雨漏りもなく使用できると判断したため選定。

##### ○土祭食堂

アート運営委員や前回の関係者からの実施要望と建物所有者との協議の結果、土祭2015と同条件で開店が可能と判断したため選定。

##### ○オカリナプロジェクト

町内の子ども達の「地域愛着醸成」という観点からジョイントコンサートの会場は小宅古墳群を選定。ソロコンサートについては千秋楽となる9月30日[日]に益子地区での夕焼けバーが開催されるため土舞台を選定。

#### 《成果と考察》

踏査会場(アート部門)については下記の通りとなる。

うち、太字はアート作品展示作家に打診した会場となり、各地区の拠点当初道の駅ましこ、土舞台・土祭広場、旧小宅小学校を想定していた。

※太字はアート作品展示作家に打診した会場。

| 地区名                 | 会場名                | 使用有無 | 備考  |
|---------------------|--------------------|------|---|
| 田野<br>(拠点…道の駅ましこ)   | 大郷戸ダム親水公園          | -    | 拠点から直線距離でも 4km 以上離れており、駐車場がない。<br>イノシシが頻繁に出るので作品を置けない。                      |
|                     | 大郷戸の五輪塔            | -    | 拠点から直線距離でも 3km 以上離れており、駐車場がない。<br>会場がわかりにくい。                                |
|                     | 山居台遺跡              | -    | 駐車場がない。埋蔵文化財に該当。  |
|                     | 山本稻荷神社古墳           | -    | 駐車場がない。埋蔵文化財に該当。  |
|                     | <b>長堤八幡宮</b>       | -    | 希望者が出なかったため。  |
|                     | 道の駅ましこ             | -    | 風景と建物が一体になっており、設置難。   |
|                     | 山本八幡宮              | 有    | (長堤八幡宮・東田井分校跡地での展示希望者が出ず、田野地区に作品展示会場がなくなってしまうため土祭 2015 でも会場として使用されたこともあり選定) |
|                     | 東田井鹿島神社            | -    | 拠点から直線距離でも 3km はなれており、地区を周遊するには遠いため。  |
|                     | 東田井町営住宅            | -    | 用途外使用が不可のため。  |
|                     | <b>東田井分校跡地</b>     | -    | 希望者が出なかったため。  |
| 益子<br>(拠点…土舞台・土祭広場) | 陶芸メッセ・益子           | 有    |   |
|                     | 元水戸屋倉庫             | -    | 子育て支援施設が建設されるため。  |
|                     | <b>元むらた民芸店</b>     | 有    |   |
|                     | <b>岩下太平商店</b>      | -    | 希望者が出なかったため。  |
|                     | <b>元 PANEM 石蔵</b>  | -    | 希望者が出なかったため。  |
|                     | 益子稲荷神社             | -    | 駐車場がない。   |
|                     | <b>元平野ガソリンスタンド</b> | -    | 希望者が出なかったため。  |
|                     | 上大羽大六天             | -    | 駐車場がないため。   |
|                     | <b>真岡鐵道小貝川橋梁</b>   | -    | 希望者が出なかったため。  |
|                     | 権現平                | -    | 駐車場がないため。   |
|                     | 高館山キャンプ場           | -    | 駐車場がないため。   |
|                     | <b>星の宮分校跡地</b>     | -    | 希望者が出なかったため。  |
|                     | <b>太平神社</b>        | -    | 希望者が出なかったため。  |

|                   |               |   |   |
|-------------------|---------------|---|---|
|                   | 三田絵画研究所前の野原   | - | 承認を得られなかったため。                               |
|                   | 城内坂大階段        | 有 |   |
|                   | 三田化学裏の林       | - | 承認を得られなかったため。                               |
|                   | 益子の森          | 有 |   |
|                   | 内町工場裏の倉庫      | 有 |   |
|                   | 西明寺コウホネの田んぼ   | 有 |   |
|                   | 益子陶芸村         | 有 |   |
|                   | 旧民宿とき         | 有 |   |
| 七井<br>(拠点…旧小宅小学校) | <b>旧小宅小学校</b> | 有 |   |
|                   | 小宅古墳群         | 有 |   |
|                   | 亀岡八幡宮         | - | 古墳群での設置を優先。                                 |
|                   | <b>七井駅前</b>   | - | 希望者が出なかったため。                                |
|                   | 蟹沢の井          | - | 駐車場がないため。                                   |
|                   | 瀧の井           | - | 駐車場がないため。                                   |
|                   | 円通寺           | - | 拠点から直線距離でも 3km 以上離れており、他会場の周遊に時間がかかってしまうため。 |
|                   | 北中八幡宮         | - | 拠点から直線距離でも 3km 以上離れており、他会場の周遊に時間がかかってしまうため。 |
|                   | 新福寺採土場        | - | 立ち入り禁止になっているため。                             |

上記候補地以外で作家からの申し出があった会場は下記の通りとなる。

| 地区 | 会場名          | 備考                    |
|----|--------------|-----------------------|
| 益子 | 見目陶苑土空間      | KINTA 氏が交渉・使用         |
|    | MCAA6gallery | douglas black 氏が交渉・使用 |

#### 《成果と考察》

アート作品展示会場・地域プロジェクトの会場それぞれが離れており、当初計画していたコンパクトな会場作りとはならなかった。同地区内でも車での移動が必要となり、アンケートにも「場所が広範囲過ぎて、回るのに大変でした。」「会場が広く駐車場もわかりにくかった為、凄く歩く事になってしまった。」「エリアが広すぎて周り切れない。場所も分からないところが多い。」という声があった。徒歩 10 分圏内や徒歩ルート上に会場を設置するなど、検討委員会での提言内容を再度確認し次回に生かす必要がある。また会場選定の時期に関しても、前・土祭のときにはすでに決定しており、前・土祭に作家と地域の方々が顔合わせできるようなスケジュールを組み立てる必要がある。

## 6-2 会場設営

### 《実施の経緯と概要》

#### ○アート作品展示

各会場にトロマットの垂れ幕を設置。垂れ幕には会場名、作家名、作品名を標記した。それ以外の会場設営は基本的に作家が対応したが、一部の会場では作家と事務局間での情報伝達の相違のため作品の展示が会期に間に合わないという事態が発生した。

旧小宅小は、清掃、草刈りだけでなく、玄関口の改装、上水道の開設などの準備が必要だったため、アート運営委員会と事務局が連携して計画的に実行した。

#### ○地域プロジェクト

大掛かりな設営が必要になったのは9/22の益子地区「昔の学校給食を食べる」と七井地区「歴史探訪のおもてなしイベント」であったが、どちらの企画も地区委員会、地域ボランティア、事務局が協力、連携することで、特に大きな遅延・事故はなかった。その他の企画についても地区委員会が主導で準備、撤収を行なった。

#### ○手仕事村・原土プロジェクト

手仕事村実行委員会のメンバーがひだまり広場の中央に本部小屋を設置した。飲食・ワークショップ出店者のテント設営はそれぞれの出店者が行なった。

### 《成果と考察》

アンケートでは「土祭が開催されるまでに、展示品が完成していないのは作家との連絡調整不足」との意見があった。作家と事務局の意思疎通をしっかりと行い、双方の役割を明確にすることが必要。

役場職員からのアンケートでは「以前より職員の負担が少なく開催出来てよかった」という意見があり、それぞれのプロジェクトで主として各地区委員を中心に町民主導が推し進められたことによるものと考えられる。

## 6-3 会期中の運営[受付と会場管理]

会期期間は下記の人員配置によりシフトの調整を行なった。

#### ○アート作品展示会場全13会場

##### ・屋内

旧小宅小学校 3名、旧民宿とき 1名、益子陶芸村 1名、陶芸メッセ・益子 2名、見目陶苑 土空間 1名、MCAA6gallery 1名、内町工場裏 2名、元むらた民芸店 1名、

・屋外

小宅古墳群 1名、西明寺コウホネ田んぼ 1名、城内坂大階段 1名

… (受付小屋レンタル)

山本八幡宮 2名、益子の森 1名 … (受付小屋購入)

○城内坂本部 (城内坂交差点) 2名

《実施の経緯と概要》

前回の反省を踏まえ、今回は各会場受付に必要な人数をアート運営員会が中心となり助言をし、それを基に土祭事務局が展示ボランティアの数と照らし合わせながら上記のとおり、各会場の人員配置が決定した。

《成果と考察》

大きな事故、破損などは特に会期中には見られなかった。しかし、上記の人員配置に関する情報が作家本人に伝わっておらず、不安な思いを抱かせるような一面もあった。作家との調整の上、土祭実行委員会側が用意できる展示ボランティアの数の共有、もしくは相談を今後は行う必要がある。また、展示作品には壊れやすいもの、貴重なものなどもあるため、どのような作品を展示するかを予め確認し合うことが必要である。

6-4 駐車場・巡回バス・レンタサイクル

| 利用実績            | 単位 (人) |
|-----------------|--------|
| シャトルバス          | 63 人   |
| レンタサイクル (道の駅のみ) | 15 人   |

《実施の経緯と概要》

○駐車場

町営駐車場の他、企画会場付近の土地を借用して期間中対応した。駐車場から展示会場までの距離が長い会場では、路上駐車私道を塞いでしまうというトラブルがあった。道の駅ましこでは、前・土祭 2017 のときから駐車場が増えたにもかかわらず、駐車できない車が多く、寄らずに帰るというケースも多々見受けられた。後・土祭では長堤八幡宮の付近に駐車場がないため、道の駅ましこ・長堤八幡宮間のシャトルバスを運行した。

○シャトルバス (巡回バス)

土祭 2015 において巡回バスの利用者数がごく少数であるという実績を踏まえて、今回は観光タクシー方式でモデルコースをめぐるというプランで計画を進めたが、実行委員会内で観光タクシー方式では 1 回あたりの利用者が限定されてしまうという意見があり、従来どおり巡回バス方式にした。巡回バスは休日にマイクロバス、平日にジャンボワゴンが 1 日 3 回無料で運行

した。停留所は益子駅、道の駅ましこ、城内坂交差点、益子の森、旧小宅小学校の5地点を設定した。

#### ○レンタサイクル

巡回バスの停留所とアート展示会場を結ぶ手段として、レンタサイクルの活用を推奨した。旧小宅小付近には、レンタサイクル施設がなかったため、土祭新聞により集めた自転車を配置した。

#### 《成果と考察》

1日限定の催し（夕焼けバー、ライブなど）では、同じ時間帯に来場者が集中し、駐車場が不足するという事態が発生した。会場付近に十分な駐車場を確保できない場合には、シャトルバスで移動手段を確保するなどの対応が必要である。

来場者アンケートでは、「巡回バスは無駄。生かす方法を考えるべき。」といった意見が寄せられた。実際に巡回バスの利用者は少なく、平日に至っては全く利用者がいないという日もあった。移動手段の確保という観点で考えれば必要性が全く無いとは言えないが、現状では費用対効果に見合っていない。巡回バスの運行については、そもそもニーズがあるのか、それともニーズはあるが広報が足りていないのか、原因をはっきりさせたうえで実施の有無・方法を再考する必要がある。

レンタサイクルに関しては、旧小宅小での貸し出しはなかったものの、道の駅ましこの電動自転車でスタンプラリーを巡るという方が多かった。アンケート等でも土祭と電動自転車は非常に相性がよいという声があり、将来的に電動自転車を活用したアクセス整備は有用だと思われる。

#### 6-5 会場サイン

|         | のぼり旗               | 立て看板          |
|---------|--------------------|---------------|
| 個数      | 240                | 98            |
| 作成・設置担当 | 地区委員会、地域ボランティア     | ヒジサポ、事務局      |
| 設置場所    | アート展示会場、地域プロジェクト会場 | 主要交差点、分岐路、駐車場 |

#### 《実施の経緯と概要》

##### ○のぼり旗

土祭の気運醸成と会場までの誘導を目的として、白布に「土祭」と毛筆した旗を掲げた。会場の広域化に伴い、設置箇所を前回150箇所から240箇所に大幅に増やした。増加分ののぼり旗の制作はヒジサポが行い、設置に使う竹の切り出しと加工は地域ボランティアが担った。会期の1週間前、地区委員会と地域ボランティアが会場への設置作業を行なった。

## ○立て看板

アート展示会場、夕焼けバー会場、地域プロジェクト会場に向かうための主要交差点、分岐路、駐車場、計 98 箇所に設置した。作成はヒジサポ協力のもと行い、2 週間の設置に耐えられるようマルチで防水加工を施した。

### 《成果と考察》

普段、観光地化していない場所をアート展示会場とすることが多い土祭では、会場サインの充実は必要不可欠である。

来場者アンケートでは、「道路にも看板がありわかりやすかった。」という声がある反面、「会場が広く駐車場もわかりにくかった為、凄く歩く事になってしまった。」という厳しい意見もあった。町外からの来場者にとって誘導看板の不足は、イベント全体の満足度に直結する課題なので、早い時期から立て看板の作成にとりかかり、設置数を増やす必要がある。

また、のぼり旗に関しては単なる会場サインとしてだけではなく、土祭のシンボルとしての意味合いもあるため、今後とも継承していくことが望ましい。

## 6-6 情報伝達についての考察

|              | 電話 | 手紙 | メール | LINE※ | Messenger※ | Slack※ |
|--------------|----|----|-----|-------|------------|--------|
| 事務局⇄田野地区委員会  | ○  | ×  | ○   | ×     | ×          | ×      |
| 事務局⇄益子地区委員会  | ○  | ×  | ×   | ○     | ○          | ×      |
| 事務局⇄七井地区委員会  | ○  | ○  | △   | ×     | ×          | ×      |
| 事務局⇄アート運営委員会 | ○  | ○  | ○   | ×     | ○          | ×      |
| 事務局⇄実行委員会    | ×  | ○  | △   | ×     | △          | ×      |
| 事務局⇄委託業者     | ○  | ×  | ○   | ○     | ○          | ○      |
| 事務局内         | ×  | ○  | ○   | △     | △          | △      |

### ○事務局⇄田野地区委員会における情報伝達

電話やメールでの調整が主な連絡手段だった。

### ○事務局⇄益子地区委員会における情報伝達

電話での調整もあるが、主に LINE で益子地区委員会とは調整し、データの添付送信のみ Messenger で行なった。

### ○事務局⇄七井地区委員会における情報伝達

リーダーとの調整は電話とメールで行い、七井地区委員会の開催通知に関しては手紙で周知をした。

### ○事務局⇄アート運営委員会における情報伝達

Messenger での調整が主となり、そのほかにも電話とメールが連絡手段だった。

○事務局⇔委託業者における情報伝達

主に Slack にて調整し、データの添付送信なども頻繁に Slack を活用。

○事務局内部

電話と LINE を使い、連絡を行なった。職員と臨時的職員とのデータの添付送信はメールもしくは USB メモリーやギガファイル便などを活用した。

《考察》

事務局は様々な組織にリンクするため、それぞれの組織の持っている連絡手段に合わせざるを得ない状況だった。そのため、情報整理に時間を要する場面も見られ円滑に進まないところもあった。事務局内部でも連絡やデータの伝達手段は役場 PC を利用することが多いため、役場 PC と接続のない事務局員の場合には時間を割らざるを得なかった。今後は事務局内部の伝達手段は Slack などのチャットツールの利用や Google Drive などでのデータのやり取りが可能になることが望ましい。

※LINE…メッセージ送信者が受信者の既読を確認することができ、よりリアルタイムの連絡のできるチャットツール。

Messenger…上記の LINE と同じ機能を持ち、SNS の Facebook の友達同士が連絡を取り合うチャットツール。

Slack…他のアプリと連動し、データの共有などが効率化された業務に特化したチャットツール。

Google Drive… Google が提供するインターネット上でデータを管理・共有などが可能なサービス。

## 7. 企画運営における体制と進め方

### 7-1 実施の経緯と概要

土祭 2018 の方針・体制・概要については、土祭 2015 閉幕後 2016 年に組織された土祭検討委員会にて作成された提言書から、町民が主役の土祭を目指すことを方針とした。

また、土祭 2015 同様、プロデューサーを置かず、外部専門家の協力を得ながら事務局と町民協働で進めた。

#### (1) 土祭実行委員会について

土祭実行委員会は土祭実行委員長をはじめ、田野地区委員会、益子地区委員会、七井地区委員会、アート運営委員会、土祭事務局により構成されている。同委員会は土祭における最高決議機関として機能した。

- ・各地区委員会（田野、益子、七井）

各地区委員会は自らの住む地域での企画運営を担当した。各地区委員会にはリーダーと副リーダーをおき、彼らが土祭実行委員会へ出席した。

- ・アート運営委員会

どのようなアート作品展示をどの会場で行うか、またどのようなプロジェクトを実施するのかを、今までの土祭に関わっていた作家の中から 4 人選出し、アート運営委員会を組織した。

#### (2) 役場内での協力体制について

土祭 2015 では、役場職員による企画チームが発足されていた。（企画チーム役場職員 28 名）しかし、土祭 2018 は町民を主役にする方針から役場職員による企画チームはなくし、土祭期間中の展示ボランティアにのみ参加する形をとった。

## 8. 土祭 2018 の総括

### 8-1 土祭 2018 の総括

#### (1) 来場者及び外部評価

##### 来場者アンケート

来場者アンケートのフリーアンサーでは、益子町の日常、雰囲気などに関しての意見が寄せられた。「テーマも全体的な雰囲気も良かったと思います。なんとなくの“ゆったり感”も良かった」(福島県在住・60代男性)「都会から離れてリラックスした時間を過ごすことができました」(東京都在住・20代女性)「毎年陶器市には伺いますが、いつも城内坂近辺だったので、今回はいろいろな顔が見れて楽しかったです！自然と人が調和して穏やかな益子町の風景が好きです！」(東京都在住・男性)「山にかこまれ自然・おいしいレストランがたくさんあり素晴らしい町です」(芳賀郡内・60代女性)などである。

「よかった企画は」という質問では地域プロジェクトを選ぶ回答が一番多く、その中でも夕焼けバーと答える来場者が多かった。「すばらしかった」(町内在住・50代男性)「3地区での夕焼けバーがよかった」(町内在住)「夕焼けバーに地元の仲間が集まって楽しかった」(町内在住・40代女性)といった意見もあった。夕焼けバー以外にも田野地区めぐり、七井地区歴史探訪、昔の益子探しなどの町を巡る系統のプロジェクトも評価された。

#### (2) 土祭での成果

組織の立ち上げが土祭関係者同士や地域の方々との新たな関係性を創出し、町内外部への益子町の魅力・知名度の向上につながったことは土祭の成果の一つである。2017年に土祭検討委員会から土祭実行委員長へ提出された提言書には町民主導へ移行するにあたり、組織という視点で3つの提言がある。「田野・益子・七井に地区委員会を組織する」、「アート運営委員会を組織する」、「既存団体への協力依頼」の3つである。土祭2018でこれらの提言は実現し、地域とアートの方面に影響を与えた。

地域では各地区に既存するお囃子会等のお祭り関連団体等に協力を依頼することで、企画運営に携わる地区委員が今まで接することのなかった方々と知り合い、関係性を築くことができた。地区委員のアンケートの回答にもそういった意見は多々あった。また、「よかった企画をお書きください」という来場者アンケートの質問においては地域プロジェクトが回答者の23.3%を占め、最も満足度の高い企画となった。

アートではアーティストの選定、およびアート作品の設置場所の選定においてスムーズに運ぶだけでなく、アーティスト同士の交流も実現でき土祭をとおした関係性を創出した。また同委員会は、旧小宅小プロジェクトを実施し、廃校でアート作品展示やレクチャーの企画を展開し廃校利用の足掛けとなった。

また、土祭2018では土祭専任サポーターを採用することにより、ボランティア組織の管理や

SNSによる広報活動が活発化した。土祭専任サポーターは土祭実行委員会の中で提案があり、臨時採用に至った。SNSの更新頻度の上昇やボランティア組織の管理、また土祭会期中は柔軟に対応するスタッフとして活躍した。

SNSの広報活動では世界的にユーザー数が増加しているInstagramの土祭公式アカウントを2018年4月26日に開設し、土祭の認知度の上昇や新規客層へのアプローチに貢献した。土祭2018終了時点ではInstagramのフォロワー数は323名だった。また、SNSだけでなく町内向けの情報紙として土祭新聞の取りまとめも行なった。ボランティアの管理においては事務局と連携し、ボランティア招集や直接ボランティアの方々との交渉などを行い、ボランティアと事務局を繋ぐ役割を全うした。ボランティアの目線に立ち、任せる仕事内容を判断することで参加者の満足度は非常に高く、彼らの次回の土祭へのリピートにも期待できる。

## 9. 今後の展開について

土祭 2018 における成果や今後の課題については、それぞれの項目ごとに具体的に例を挙げながら述べてきた。ここでは、それらの課題を大きく 3 つに分け下記の通り示す。

### 9-1 土祭実行委員会の体制について

土祭 2018 では 3 地区に地区委員会をおき、益子町全体での開催を可能にした。また、今後町民主導を更に実現するために次のとおり展開していくことが重要である。

今回は町民との意見交換の場や町民に対して説明する場が少なかった。そのため、土祭実行委員会が広く町民に開かれたものになるような工夫が今後は必要である。

また今後の展開として町民と協力し土祭進行のノウハウを蓄積する仕組みも必須である。土祭開催を重ねる度に事務局員が変わるため、土祭進行のノウハウの蓄積が十分にできていない。次回においてはノウハウの蓄積という点から体制を整える必要がある。

### 9-2 地域とアートに関して

会期中にいただいた意見で「土祭のアート会場になることによって益子の観光資源が増えていくことを期待しております」というものがあった。またその反面、「益子の景色や施設を活かしきれていないのでは」といった意見もあった。地域とアートにおいて次のとおり展開していくことが重要である。

観光資源のためや地域づくりに対し、予算内で最大限の効果を出せるように町民や、地域との協議を含めた作家選定が必要である。また、作家の益子町での調査や町民及び関係者との交流する時間を組めるように作家選定を早期に行なうことが望ましい。

### 9-3 広報に関して

今回は広報期間の短さ、広報範囲の狭さが大きな問題点だった。今後の展開は次の通りである。

次回はより戦略的な広報計画を立てることが必須である。今回は土祭認知の窓口を広げるため、近年ユーザーが増加している **Instagram** を開設するなどの動きがあった。一方で、コンセプトからのターゲットの設定などの専門知識が必要な点においては改善の余地がある。そのため、担当者の配置や戦略立てを見込んだ広報計画を練る必要がある。

また、事務局の観光商工課のみならず、役場各課、町内各者の協力を促し、広報の範囲の幅を

広めることである。フライヤーやポスターなどの広報物はこれまでは町内店舗や近郊の行政機関などリストを基に配布をしていた。今回は益子陶芸美術館のチラシのリストを参考に新しくリスト作成を行なった。今後も広報範囲の幅を広げるため事務局内でとどまらない協力要請を積極的にすべきである。